

(3) 領域別に分けた余震活動推移

余震域(図1-1の領域a)を短冊状(図3-1の領域b~e)に分けた活動の推移を図3に示す。陸域の領域bでは、2016年12月28日の茨城県北部の地震(M6.3)の周辺で、地震活動が引き続きみられる。沿岸域の領域cでは、全体的には活動は低下しつつも2016年11月22日の福島県沖の地震(M7.4)の周辺などで活発な余震活動が引き続きみられる。回数積算図や時空間分布図から、領域dでは、余震活動は低下してきている様子がみられるが、領域eでは、海溝軸付近または海溝軸の東側で、2017年9月、10月及び11月にM6.0以上の地震が合計3回発生するなど、余震活動が引き続きみられる。

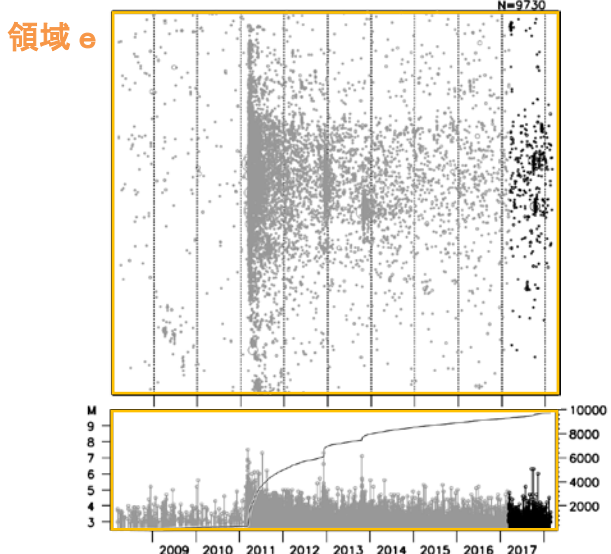
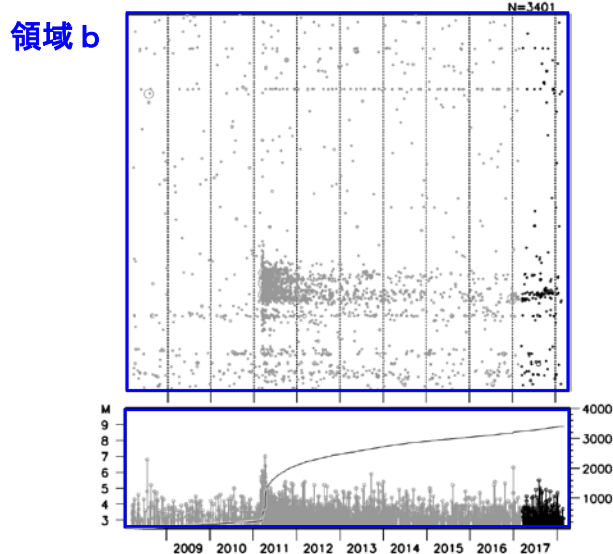
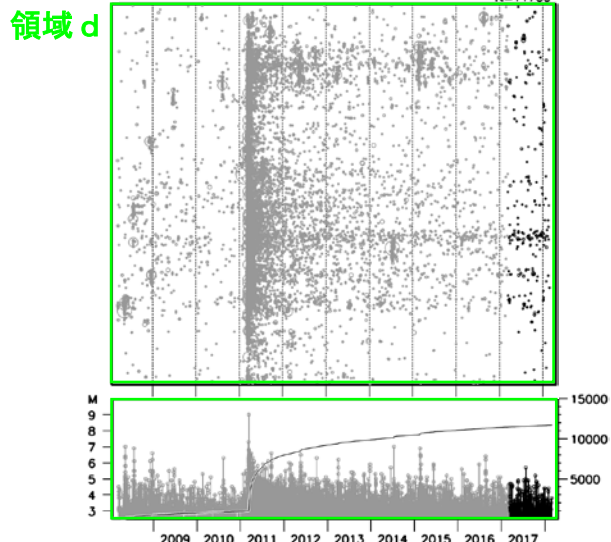
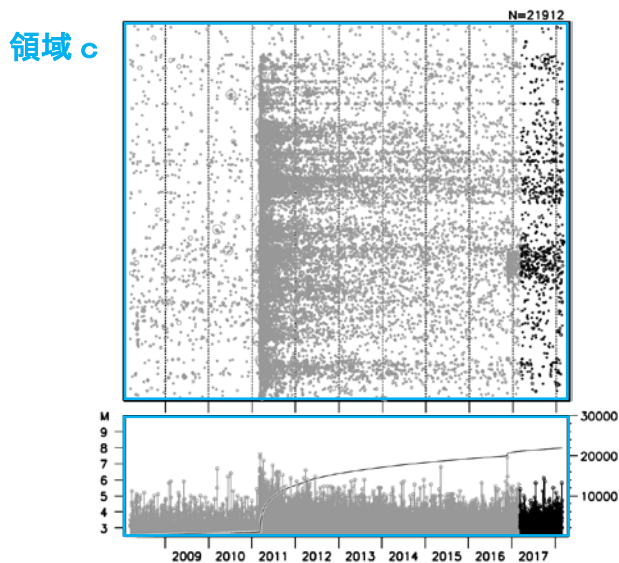
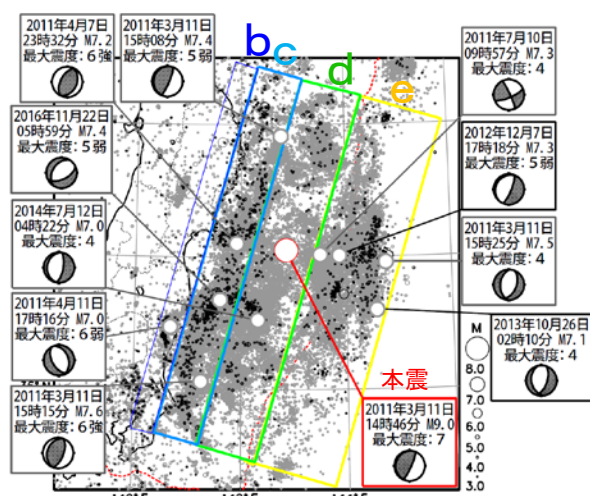


図3-1 震央分布図と時空間分布図
(2008年3月11日14時46分~2018年2月28日14時45分)
領域b~eの範囲は、図1-1の領域aに同じ。

図3-2 各領域(図3-1の領域b~e)の時空間分布図とM-T図及び回数積算図
(左下:領域b 右上:領域c 右中:領域d 右下:領域e)